

平成 28 年度 第 1 回熊本市公共交通協議会 議事録

I 日時等

1. 日 時：平成 28 年 8 月 24 日（水）午前 10 時から午前 11 時 30 分まで
2. 場 所：熊本市自転車駐車場 8 階 大会議室
3. 事務局：熊本市 都市建設局 交通政策総室

II 主な内容

1. 開会
 2. 委員紹介及び委嘱状交付
 3. オブザーバー紹介
 4. 市長挨拶
 5. 会長及び副会長の選出
 - ・ 全会一致で坂本委員を会長に選出。
 - ・ 坂本会長が溝上委員と円山委員を副会長に指名し、全会一致で承認。
 6. 会長及び副会長挨拶
 7. 議事
 - (1) 専門部会委員及び部会長の指名について
 - ・ 事務局が専門部会について説明。
 - ・ 事務局が「資料 1：専門部会委員（案）」を説明。
 - ・ 坂本会長が補足説明を行い、全会一致で「専門部会委員（案）」を承認。
 - ・ 坂本会長が溝上副会長をバス路線網再編部会長に指名し、円山副会長をコミュニティ交通部会長に指名した。また、坂本会長が基幹公共交通部会長に就任する意向を表明し、3 部会長について全会一致で承認。
 - (2) 平成 28 年度の事業展開について
 - ・ 事務局が「資料 2」を説明。
 - ・ その後、質疑応答。
- (委員)
- ・ 各部会で議論されたことは共有できるのか。

(会長)

- ・ 専門的に各部会で議論を行い、全体会で報告・協議をすることになるので、その際に共有することができる。
- ・ そのほか、何か意見はないか。

(委員)

- ・ 基本的な話で、以前もこの場で述べさせていただいたことではあるが、地震以降、朝の渋滞がひどく、例えば堀川から市内まで1.5～2時間かかるという状況が今も続いている。朝は学校や会社に定時までに行かなければならないが、そのような状況ということもあり、元々ここ2～3年輸送人員が落ちてきているなかで、地震以降更に悪化し、なかなか戻らない。バス路線網の再編もさることながら、もっと抜本的な対策をとということで、公共交通が有効活用される環境整備というものを事前にやっておかないと、渋滞の状況は変わらないと思われるので、その点をもう少し検討すべきではないか。

(会長)

- ・ 委員は以前、抜本的な問題解決としては、例えばマイカーの乗り入れ規制などといった段階に踏み込まないと、公共交通の利便性は確保できないという問題提起をされていた。
- ・ バス優先道路の確保などの行政ができる部分と、また、震災もあったので、従来に戻すという形ではなく、更に踏み込んでいかないと利用者も過疎化をしてしまっていて、取り返しのつかない状況になるのではないかとということ懸念されている。
- ・ 今回の震災直後、公共交通が早期に復旧したということは、震災の復興の大きな力になったと思っている。バスが時刻表通りに運行していない、という意見もあるが、利用せざるを得なかった、あるいは利用することで助かったということが大きいと思うが、今後再編を進めていくにあたって、現実に朝にとっても乗れないという状況はここで解決すること難しいが、とても大きな問題である。これに関連した意見や質問はないか。

(副会長)

- ・ 委員が言われることはなんとなく分かるが、実際に何分かかっているのか、何人積み残したのか、どれくらい遅延しているのか、などの具体的なデータが必要だと思われる。この協議会の場にもぜひそういうものを出していただいて、皆さんで共通認識を持って話をしていきたい。

(会長)

- ・ 現実には、しばらくの間は乗務員の方が被災していたり、バスが動かない、市内に入ってから始発のところまで戻って来られないため1時間遅れる、などといった状況もあった。委員のさきほどのお話ですと、いまだに通勤・通学時間帯の定時性が確保できてないということなので、これはまたデータ出していただいて、実情の話で挙げていただきたい。
- ・ 都市バスさんのほうはだいぶ回復したという話を伺っていますが。

(委員)

- ・ 第1環状線では、上熊本から熊本駅までの区間が震災直後は非常に遅れが生じて、お叱りをいただいたが、道路や熊本城等の周辺の復旧が進んだこともあり、地震直後よりもかなり改善している。

(会長)

- ・ 熊本バスさんはいかがか。

(委員)

- ・ 日によってまだ読めない部分があるが、旧下益城城南から交通センターまで3時間かかることもあり、クレームが非常に多い。また、労務管理のほうにも問題があり、残業が増えて休みがなかなかとれないような状況で、この点についても考えていかなければならないので非常に難しい。

(会長)

- ・ 色々お話を伺うと、深刻な問題が出てくる。是非各部会でも議論いただきたい。本日は代理出席ではあるが、九州産交バスさんはどうか。光の森に営業所を作ったので、以前とは状況が違うとは思うが。

(委員)

- ・ 委員がおっしゃられたのと同じで、私どもの路線でいうと京町方面が混んでいる。今後の乗換拠点整備の検討のなかで、今の状況を解決できないと、乗換拠点の整備をします、といっても利用者からすれば説得力のない話になるので、副会長がおっしゃったように客観的な数字を出す必要がある。
- ・ また、私どもバス事業者も委員の発案で先進地の現地視察にいったばかりで、色々勉強していく段階だと思っている。

(会長)

- ・ 利用者からすると、どの程度遅れているのかということが、バスロケーションシステムの故障もあり全然分からない状況ではあるが、その辺りの復

旧の見通し等は事務局いかがか。

(事務局)

- ・ 現在バスロケーションシステムについてはバス協会の方で管理していただいているが、なかなか復旧が難しいと伺っている。今回の再編実施計画のなかでもバスロケーションシステムについて議論を進めていく予定であり、近々に取り組んでいかなければならないと考えている。市民の方々がどういふもの求めているかを、ベースにして考えていきたい。
- ・ また、市電のロケーションシステムについては設置に向けて準備しており、そういうものも参考に、バスと市電と一緒に考えていければと思っている。

(会長)

- ・ すぐにといいことではないと思うが、利用者目線とていことが大事だと思ふ。
- ・ ICカードを導入して一番大きな利便性とていのは、乗客の乗降や路線の実態などがかなり把握しやすい、とていことであるが、都市バスさんはその辺りの調整や企画などについて、今の感触としてはいかがか。

(委員)

- ・ 現在の取組状況としては、ICカードのデータは各社でとれている。都市バスとしては、昨年ダイヤ編成システムを導入したので、これに各事業者のデータを今月いっばいで入れてしまつて、都市バスで全体のダイヤのチェックに入つていくとていところ。

(会長)

- ・ 細かいところはこれからやつていくとていことになるかと思ふが、大きな問題点、大体皆さまもお感じの問題点が出たと思ふので、このあたりも今後つめていきたいと思ふ。
- ・ その他に意見や質問はないか。

(委員)

- ・ 基幹公共交通部会のなかで乗換拠点として3方面挙げているが、「地震による被害状況に応じて対象とする方面を変更する可能性あり」とてい注釈が書いてある。この件について、いつ頃検討して、変えるのか変えないのかなどの見通しがあればお聞きしたい。

(会長)

- ・ 事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・ この件については昨年度3方面(「植木・北部方面」、「城山・小島方面」、「嘉島・城南方面」)について優先的に乗換拠点整備を進めたい、という話であったが、今回の震災に際し熊本市で復興計画を作っており、その内容によっては東部方面が震災の影響を非常に受けていることから、優先的に整備をする対象としてあがってくる可能性がある。ただまだその地点に至っていないため、こういった書き方をさせていただいているが、決まり次第、この3方向+1とするか或いは3つのうち1つを外して東部方面を入れるかなど、みなさまにご報告して検討させていただきたいと考えている。

(3) 平成28年熊本地震による被災状況について

- ・ 事務局が「資料3」を説明。
- ・ その後、質疑応答。

(会長)

- ・ 被害状況は大変厳しいものであるが、最後にあったように公共交通の事業者の皆さまには震災直後から大変ご尽力いただき、大変に感謝申し上げます。内容については皆様方のご意見を伺いたい。

(委員)

- ・ 地震の影響で区役所等に行く機会が増えたという市民の方が多かったが、旧市内から北区役所に行く方々は、区バスが廃止になったということもあり、不便だったという声があった。地震はないのが一番であるが、各区役所に行く足を確保するということが大事だと思った。

(会長)

- ・ 区バスを作ったときには区役所に行く人にしかあまり意味がなく、路線的には難しいということで、色々努力はしたが、定期的には難しいとのことだった。廃止した直後にこういう形で震災が起きて、あればもっと便利だったなとは思いますが、事務局はこの件についてはどう考えているか。

(事務局)

- ・ 政令市になるときに区バス並びにゆうゆうバスという形で作らせていただいたが、なかなか利用者がいないという状況が続き、当然他のバスと同じように廃止基準というものがあり、それに該当するため、廃止という状況になった。今回の震災に際して新たな必要性が出てきたというのは確かだと思いが、またバスを動かして赤字が続く、ということもあるので難しいと

思う。

- ・ しかしながら、利用者が多い、利用者がいるということが前提になるが、バス路線網再編のなかで新たなコミュニティなども考えているので、検討させていただければと思う。

(会長)

- ・ あれば便利ではあったが、色々な形で代替できるとの見通しを立てたところ震災が発生し、反省材料は色々ある。今後の部会などで是非忌憚のないご意見をいただき、これまでの経緯もあるのでいきなり新設や再開などは難しいにしても、路線の再編のところでは是非ご検討いただきたい。

(4) その他

(委員)

- ・ 条例の目的のなかには市の責務、交通事業者の責務、そして市民の責務というものを謳っており、要するに、公共交通はあるのは当たり前ではない、使わなければなくなる、ということである。これあたって、この場では貴重な意見が出てくるが、ここで止めてはいけないと思う。事務局のほうとしては啓発・市民の方々への発信ということでの具体的な取り組みについて教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 私どもとしては利用促進という項目の中でさせていただいており、バス事業者と行っている公共交通キャンペーンや、小学生を対象としてバスの乗降などを体験していただく出前講座を実施している。
- ・ 今後は網形成計画に書いてあるが、モビリティマネジメントの実施が一番大事かと思う。これについては私ども単独で行うには限界があるが、大学等色々な団体の方々にご協力いただきながら行っていきたいと思っており、各部会でも議題としてあげていきたいので、ご意見いただきながら実施にむけて取り組んでいきたい。

(委員)

- ・ 来年の6月に向けて再編実施計画にうつっていくわけだが、網形成計画の時と同様で足早という感じが否めない。網形成計画策定の際にもパブリックコメントや市民への説明の場を設けるべきじゃないかということで話があり、網形成計画の際にこれらを実施したと思うが、その結果や手ごたえはどうだったか。

(事務局)

- ・ 網形成計画のパブリックコメントについて、いただいた意見の件数が16件、提出された人数が7名であった。今回の再編実施計画につきましては、パブリックコメントは実施しないが、策定にあたって市民の方々のご意見も重要になるので、皆さんの目に入るように進めていきたい。

(委員)

- ・ 説明会についても、もう少し数を増やして、小学校全校区とまでは言わないが中学校全校区ぐらいで実施し、自治会さんも巻き込んで意識を共有する機会を増やしていただきたいと思うし、この場に報道機関の方も入っていらっしゃるので、是非問題意識や危機感を共有していけたらと思う。
- ・ 今日は都市建設局の局長さんもいらっしゃってますけども、議会であったり、みなさんそれぞれの役割や立場があろうかと思う。バスベいの増設であったり右折レーンを増やしたりとか、そういうことも積極的に行っているが、まだまだ足りない部分もある。もっと皆さんの知恵を拝借すれば、もっといいものができると思うので宜しくお願ひしたい。

(会長)

- ・ この件については私からもお願ひしたいと思う。
- ・ その他には何かあるか。

(委員)

- ・ 今年度から来年の6月に向けて、再編実施計画ということで作っていきたいと思っているが、今日お話があったように震災直後からものすごい渋滞が起こってる。発生直後の渋滞については物理的に道路が通れないことによる渋滞で、これについては応急復旧がほとんど終わった状態ではあるものの、未だに渋滞が発生しており、このことについてはやはり復旧復興関係者の方々がたくさん熊本に入ってきていることが関係しているのではないかと考えている。当然復旧復興というものは1～2年で終わることではないし、長期にかかるとは思うが、この渋滞については徐々に解消していこうと考えている。
- ・ また、道路関係は応急復旧しているが、現在国の災害査定を受け、これから本復旧となるため、また通行止め箇所が出てくることから新たな場所で渋滞が生じることも考えられる。
- ・ そういった状況のなかでも、ゾーンシステムなり何なりを進めていく必要があるが、そのなかで一番考えなければならないのが利用者のことであり、当然単なる乗換拠点を作るのではなく、さきほど話に挙げたバスロケーションシステムや、乗換拠点の環境、また利便性の高いダイヤはどうする

のかということと、プラスしてバス事業者の方々の経営の視点等が大事になってくるので、再編実施計画を作ることは非常に難しいことだとは思いますが、来年の6月に向けて、国・県等にご協力いただいて作っていききたいので、非常に厳しいスケジュールかとは思いますが宜しくお願い申し上げたい。

(会長)

- ・ マスコミ関係で何かご意見はないか。

(委員)

- ・ いよいよ、今年再編実施計画の策定が進んで、説明だと平成29年度のダイヤ改正を目指すということで、実際の計画に基づいて利用者が利便性を感じる段階になったのかなという思いで説明を聞いていた。それと、皆さんの意見を聞いて思ったことであるが、地震の発生によって、渋滞も含め利用者の変化が多々起こっており、そういった復旧復興は数年かかると思うので、この再編実施計画も地震によるさまざまな変化を加味したかたちで、状況がどうなのかという客観的なデータを含め、提示していきながら策定していくと、より利便性が高いものになるのではないかと思います。

(会長)

- ・ それではこれからの事務局の進行状況が大変になると思うので、改めて伺って、それで締めたいと思う。

(事務局)

- ・ 色々ご意見をいただいたが、先ほど中島委員からお話があったように、地震以降渋滞により利用者が減少し、そこからいまだに9割程度しか戻っておらず、逆に自家用車の利用が増えているというような状況である。また、路面が荒れているため車の速度が落ちていることも渋滞発生原因の1つではないかと考えているが、この件については抜本的なことも考えなくてはならないし、今の実情を把握していかなければと思っている。
- ・ 今回、来年の6月までに実施計画をということで、非常にタイトなスケジュールにはなるが、我々行政の責務、また事業者に対しても責任が出てくるかと思うが、今回のこの震災によって利用者の減少、経営等の悪化もあり、その点についても考えながら再編実施計画を作っていく必要がある。
- ・ また、国並び県の方々に色々ご相談させていただき、熊本県警の方にご指導いただきながら、そして委員の皆様にも知恵をいただきながら、再編実施計画の策定に向かっていきたいと考えている。職員一丸となって頑張っていくので、ご協力を宜しくお願いしたい。

(会長)

- ・ これから1年厳しい状況になるが、これまでの議論をふまえて、きちんとした再編実施計画ができるかどうか、「我々が作ってきたランドデザインと交通基本条例が活かされたものになるか」、そして「市民の責務ということについて、市民の方にきちんとお願いできるかどうか」という正念場になるかと思しますので、ぜひ宜しくお願いしたい。

(坂本会長)

- ・ 以上で本日の議事はすべて終了しました。皆様、ありがとうございました。